# 平城宮跡・藤原宮跡の整備

庶務部・建造物研究室・平城宮跡発掘調査部・飛鳥藤原宮跡発掘調査部

## 1 平城宮跡の整備

1992年度に実施した宮跡整備は，宮内省西北殿復原，朱雀門周辺整備，第一次大極殿院地区整備，佐紀池石積護岸整備，案内板設置，高圧電気整備改修，保存科学実験室改修及び樹木名板設置などを行った。

**宮内省西北殿復原**　昨年度に引き続く工事で，12月にすべてが完了し，ここに軸線をそろえて桁行９間の西南殿と12間の西北殿とがそろうことになった。梁間が２間であることや構造形式や外観等すべて両者共通しており，特に東面する扉口と土壁との関係を同じパターンで統一したこともあって，２棟の連帯感がより強調されるという効果が出た。図1.A　（細見啓三）

**宮内省正殿の礎石復原**　西北殿の東方に位置する桁行７間・梁行４間・柱間各15尺・南北棟の大形建物で，この区域内での正殿と考えられている。礎石が北から３列にわたり当初のまま遺存していることでもこれまで注目され，露出展示の形をとってきた。ところが南殿２棟が復原されたのをはじめとして，このたび西南殿・西北殿ともそろい，整備レベルの関係もあって，この際に建物の復原を念頭においた上での礎石復原を行うこととなった。一部であれ当初の礎石が残るところから，先ずこれを被覆し保護することを第一義に考え，礎石を養生の上，全面にわたり厚35cm の鉄筋コンクリートスラブを打ち，この上に厚30cm にカットした礎石を据えるという工法をとることにした。周囲の基壇は羽目石・葛石で構成される簡単なものであったろうが，今回は復原せず法面に形成した上，上面と同じように張芝仕上げにとどめた。

この建物の構造形式は，遺構・遺物などから，切妻造で瓦葺き，三ツ斗程度の組物をもち，軒は地円飛角の２軒であったと想定される。もちろん外壁には扉口や連子窓または土壁等で閉ざされていたはずである。今後の復原が期待される。図1.B　（細見啓三）

**朱雀門周辺整備**　昨年度に朱雀門基壇の復原を完了したことから，本年度は朱雀門に取付く築地大垣の復原表示と門前広場の整備を行った。

朱雀門基壇と既設復原築地との間は，築地の平面表示にとどめ，既設築地と同様に雨落葛石は凝灰岩延石，築地両側下には花崗岩延石を並べ，犬走り・築地内はそれぞれ色モルタル仕上げを施した。朱雀門基壇復原に先立つ第121次発掘調査によって，築地幅はこれまで考えられていた門両側のみ基底幅12尺と大きくなるというものではなく，すべて基準幅９尺であることがわかったので，この新知見による築地幅としている。なお，脇門の存在は第16次発掘調査でも確認された通り，門中心から約100尺隔たった位置に柱心々14.5尺のくぐり門があったとみてよい。今回は直径1.2尺の門柱を地上80cm 立上げその位置を示すとともに，唐居敷や蹴放しはそれぞれの下に入っていたであろう見切石を据え表現した。ただ，東方は全長にわたって施工できたが，西方は市道との関係から朱雀門側の柱１本を立てるにとどまった。図1.C　（細見啓三）

門前広場は，正面階段及び東脇門と復原二条大路内苑路とを結ぶ苑路を造成し，苑路は化粧砂利敷（門正面苑路幅17m，脇門苑路幅５m）舗装とし，その他は張芝とした。なお，新設苑路と二条大路内苑路の接合部には車止柵（ステンレス製，径14.3mm）を，その他道路境界線には擬木柵（コンクリート製焼杉仕上げ，高45cm）を設置した。（上垣内茂樹）

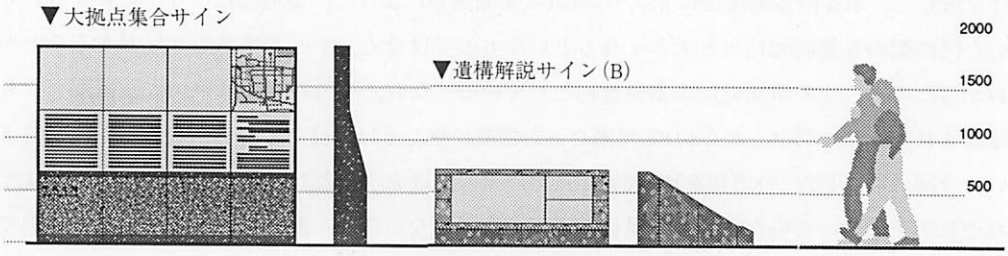
**第一次大極殿院地区整備**　第一次大極殿院地区暫定整備の一環として，本年度は北の大極殿が建つ台地と南の広場との間にある壇を視覚的に捉えられるよう壇造成を行った。ここには奈良時代前半期の高さ約2.2m の塼積擁壁と，その後位置を約18.3m 南に移してつくられた奈良時代後半期の玉石積擁壁からなる高さ約1.8m の壇がある。今回の造成では現存する後期の遺構を保護する関係上，玉石積擁壁の位置に壇を設けた。しかし，高低差については法面を芝生で保護するため約1.2m とし，かつその勾配も本来の玉石積擁壁より緩くし，約26度とした。なお，造成した段差の東西延長は約131.4m である。図1.D（高瀬要一）

**佐紀池石積護岸整備**　平城宮跡の北西部にある佐紀池の西岸は民地と接しており，波による堤の崩落が近年目立つようになってきたことから，同池の西岸部に花崗岩雑割石による護岸整備を行った。石積擁壁の場合，コンクリート基礎を設けるのが通例であるが，今回は，下部に残存する遺構に影響を与えないよう遺構上部に生松丸太の梯子胴木基礎を採用した。なお，石積擁壁の設置位置は，擁壁裏込の後線を敷地境界線に合わせるようにし，擁壁の所有と管理責任が明確となるようにした。施工した石積の総延長は約70m となった。図1.E（渡邊康史）

**案内板設置**　平城宮跡サイン計画に基づき，大拠点集合サイン１基，遺構解説サイン(B) 5基及び平城宮跡地図サイン（路面埋込型）７基を設置した。

大拠点集合サインは，平城宮の鳥瞰図，平城宮跡地図，平城宮跡の説明文，資料館の案内などを焼き付けた陶板を，鉄筋コンクリートの軀体に張り付け，花崗岩切石で外装を施したもの。総合案内板の役割を持つもので，遺構展示館東側の案内広場の北端に位置した。説明文は，和文・英文のほか，平城宮跡のサインとしてははじめて中国語・ハングルでの表記も採用した。

遺構解説サイン(B)は，イラストと説明文（和文・英文）を焼き付けた陶板をコンクリート軀体に張り付け，凝灰岩の切石で外装を施したもの。イラストは，それぞれの遺構の奈良時代の推定復原図を基調とし，人物を描き込むことによって臨場感を演出した。設置場所は，宮内省の復原建物，内裏の井戸，朱雀門，兵部省，北面大垣である。図1.F（小野健吉）




平城宮跡サイン計画に基づく案内板

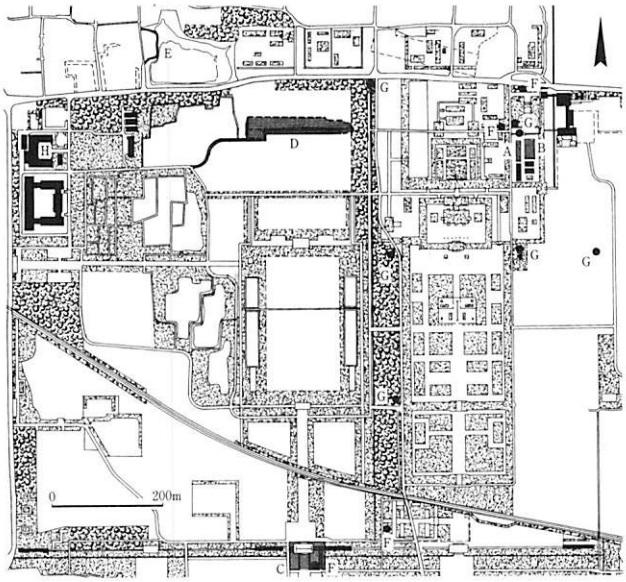
**高圧電気設備改修**　平城宮跡内の発掘調査用高圧電源として，宮跡内に地中埋設配線（6.6KV）を行っているが，近年配電設備の老朽が進み耐用年数も経過していることから，これを改修することとした。既存の設備は施工後20年を経過しており，発掘調査や環境整備の進捗に伴う経路変更の必要性も出てきていた。本年度は第一次大極殿院外の東北隅部受電設備（キュービクル）をはじめ，中央緑陰帯内変電設備等キュービクル（据置き型）を計６基及びそれらに至る配電線（高圧スチールコルゲートケーブル22sq-3c 土中直埋）の更新を行った。図１.G　（小園秀彦）

**保存科学実験室改修**　平成３年度にそれまで第３収蔵庫内に分散していた出土遺物の保存処理施設を集中させるよう大型遺物処理棟の建設を行った。その結果，移転跡の利用法として，発掘出土遺物の保存処理方法や実際の作業が見学できる施設に改修することとし，平城宮跡資料館地区の見学施設の充実を図った。改修は，見学者が保存処理作業の邪魔にならないよう見学用通路（廊下）を設け，その通路沿いの各処理室の壁にできるだけ窓を多く取り，内部での処理作業等が見学出来るようにした。図１.H　（坂上定敬）

**平城宮現況樹木調査と樹木名板設置**　当研究所では第一次大極殿院の復原整備に向けて，平成元年度から基礎調査をすすめてきており，昨年度（平成３年度）には宮内に現存する樹木の悉皆調査を行った。その結果，現在宮内には約3,800本の樹木が生育していることが把握できたが，今後将来にむけて樹木の生育を追跡調査する必要がわかった。そこで今年度は追跡調査すべき調査木を約100本選び，これらの樹木の台帳を作成するとともに，各樹木に登録ナンバー，標準和名，学名，植栽年度を入れたアルミ製プレートを取り付け，５年ないし10年後に予定している追跡調査に備えた。同時にこれらのプレートは平城宮見学者に樹木名を学習してもらうことも考え，追跡調査用とは別に見学者用プレートをこれも約100枚取り付けた。　（高瀬要一）

| | | |
|---|---|---|
| 宮内省<br>西北殿<br>復　原<br>261.39m²<br>94,245千円 | 宮内省<br>正殿礎石<br>復　原<br>685.7m²<br>28,531千円 | 朱雀門<br>周　辺<br>整　備<br>2,952m²<br>19,528千円 |
| 第一次<br>大極殿<br>整　備<br>7,328m²<br>27,202千円 | 案内板<br>設　置<br>13　基<br>13,905千円 | 高圧電<br>気設備<br>改　修<br>6　基<br>36,968千円 |
| 佐紀池<br>護　岸<br>石　積<br>72.7m²<br>11,422.7千円 | 樹　木<br>名　札<br>取　付<br>201本<br>669.5千円 | 保　存<br>科学室<br>改　修<br>192m²<br>14,008千円 |

平城宮跡整備費内訳

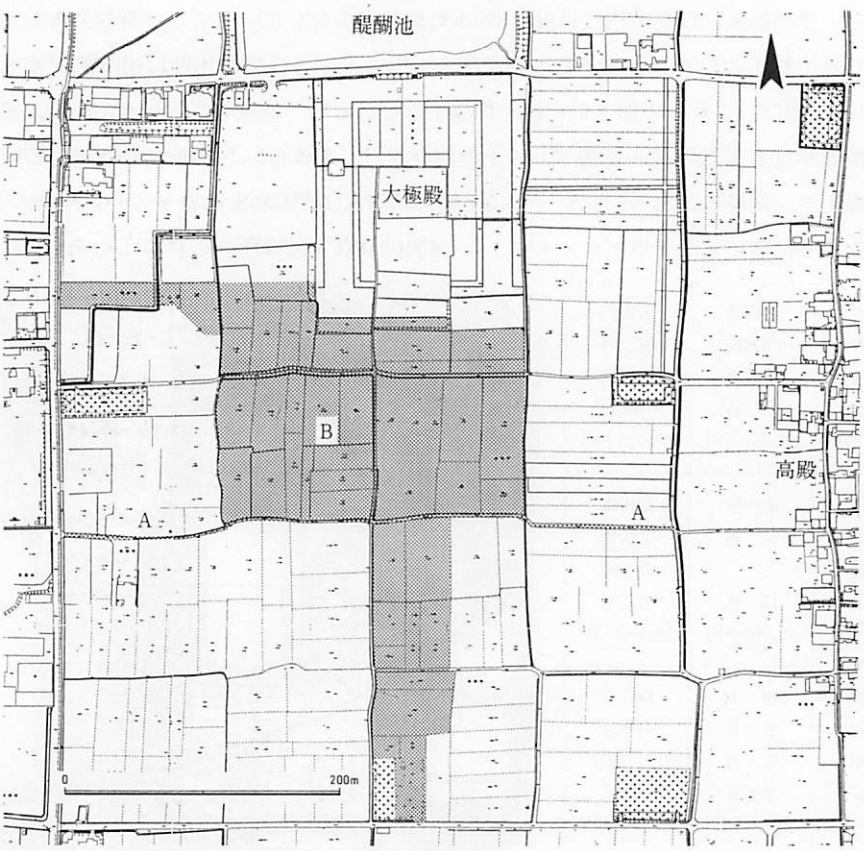



平城宮跡整備位置図（図１）

## 2 藤原宮跡の整備

宮跡東方の集落（高殿）から鴨公小学校に連絡する通学路整備の一環として朝堂院の中央を東西に走る畦畔沿いに園路整備を行った（図中A）。新設園路は幅2.5mで，粒調砕敷の表面仕上げとした。また，これと並行して大極殿院および朝堂院地区に盛土による広場を造成した（図中B）。広場は，大極殿院の東と西を南北に流れる2本の農業用水路に挟まれた東西約225mの区域のうち，大極殿院の南面回廊から先述の新設園路に至る南北約150mの範囲である。平均盛土厚は約50cmで，表面を化粧砂利敷，周囲の法面を張芝で処理した。また，造成後の土壌安定のために予め表土（耕作土）の掘削除去を行ったほか，盛土中に10m間隔で透水管を埋設するなど，特に排水に留意した設計を行った。周辺の未買収地（耕作地）との関連から従来の水系を温存する必要があり，営農時に給排水路として開削された小規模な素掘溝なども極力暗渠で残すこととした。この広場への導入路として，西方と南方の市道から延びる化粧砂利敷の園路を設置した。本年度の整備面積は47,093m$^2$，工事費は185,400千円であった。

なお，この造成地は1995年3月29日から橿原市主催のもとに開催される藤原京創都1300年記念事業（ロマントピア藤原京）の会場としても利用される予定である。（本中　真）




藤原宮跡整備位置図